

高付加価値型食品等開発推進事業助成金交付要綱

第1 趣旨

公益財団法人静岡県産業振興財団理事長（以下「理事長」という。）は、静岡県内中小企業者等による高付加価値型食品等の製品化を支援するため、試作品開発・実証試験を行う中小企業者等に対し、助成金を交付するものとし、その交付に関しては、この要綱の定めるところによる。

第2 定義

(1) この要綱において「高付加価値型食品等」とは、機能性を有し、かつ安全性が担保され、安心して食することができるもので、さらに食材や製法等についても十分吟味された、食品若しくは食品素材を使った製品又は食品加工機械をいう。

(2) この要綱において「中小企業者等」とは、中小企業者及び農林漁業者であって、県内に主たる事務所、事業所又は住所を有する者をいう。

(3) この要綱において「中小企業者」とは、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条第1項に規定する中小企業者、中小企業団体の組織に関する法律（昭和32年法律第185号）第3条第1項に規定する中小企業団体（火災共済協同組合及び信用協同組合を除く。）、特別の法律によって設立された組合及びその連合会であってその直接又は間接の構成員たる事業者の3分の2以上が中小企業基本法第2条第1項に規定する中小企業者であるもの並びに一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号）の規定による一般社団法人（公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成18年法律第49号）第2条第1号に規定する公益社団法人を含む。）であってその直接又は間接の構成員の3分の2以上が中小企業基本法第2条第1項に規定する中小企業者であるものをいう。

(4) この要綱において「農林漁業者」とは、次の各号のいずれかに該当する者をいう。

- ア 農業協同組合法（昭和22年法律第132号）に規定する農業協同組合及び農業者
- イ 森林組合法（昭和53年法律第36号）に規定する森林組合及び森林法（昭和26年法律第2号）に規定する森林所有者
- ウ 水産業協同組合法（昭和23年法律第242号）に規定する漁業協同組合及び漁民

第3 助成の対象、補助率等

別表第1に掲げるとおりとする。

第4 交付の申請

(1) 提出書類 各1部

ア 交付申請書（様式第1号）

イ 事業実施計画書（様式第2号）

(2) 提出期限

別に定める日まで

第5 交付の決定

理事長は、第4の申請があったときは、その内容の審査及び必要に応じて行う現地調査等により、助成金を交付することと認めたときは、交付決定するものとする。

第6 交付の条件

次に掲げる事項は、交付の決定をする際の条件となるものである。

(1) 次に掲げる事項のいずれかに該当する場合には、あらかじめ理事長の承認を受けなければならないこと。

ア 助成事業に要する経費の配分の変更（軽微な変更を除く。）をしようとする場合

イ 助成事業の内容の変更（軽微な変更を除く。）をしようとする場合

ウ 助成事業を中止し、又は廃止しようとする場合

(2) 助成事業が予定の期間内に完了しない場合又は助成事業の遂行が困難となった場合においては、速やかに理事長に報告してその指示を受けなければならないこと。

(3) 助成事業により取得し、又は効用の増加した財産のうち、1件当たりの取得価格が20万円

以上の機械及び器具については、減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第15号）に定められている耐用年数等に相当する期間（同令に定めがない財産については、静岡県知事が別に定める期間）内において、理事長の承認を受けず、助成金の交付の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、又は担保に供してはならないこと。

(4) 理事長の承認を受けて(3)の財産を処分することにより収入があった場合には、その収入の全部又は一部を公益財団法人静岡県産業振興財団（以下「産業財団」という。）に納付させることがあること。

(5) 助成事業により取得し、又は効用の増加した財産については、事業完了後においても善良な管理者の注意をもって管理するとともに、その効率的な運営を図らなければならぬこと。

(6) 助成事業の決定、確定等に当たり、助成事業者名、住所、事業の名称を公表することを了承すること。

(7) 助成事業に係る内容の発表に関しては、理事長が指示した場合には、その指示に従わなければならないこと。なお、特許出願を行っている場合は、特許法（昭和34年法律第121号）第65条の2に基づき出願公開後に行うものとする。

(8) 製品開発の成果に基づき特許出願、実用新案登録出願又は意匠登録出願を行った場合は、遅滞なくその旨を理事長に届け出なければならないこと。

(9) 助成事業及び特許権等の実施あるいは譲渡等によって相当の収益を得たと理事長が認められた場合には、交付を受けた助成金の全部又は一部に相当する金額を産業財団に納付させることがあること。

(10) 助成事業の完了した日の属する年度の翌年度から3年間、毎年度終了後15日以内に助成事業に係る過去1年間の成果状況について、成果報告書（様式第8号）により理事長に報告しなければならないこと。

(11) 助成金の収支に関する帳簿を備え、領収書等関係書類を整理し、並びにこれらの帳簿及び書類を助成金の交付を受けた年度終了後5年間保管しなければならないこと。

(12) 助成金の対象期間内において、類似の内容で他の助成制度による同様の助成を受ける場合、本助成金は受けられないこと。

(13) 次に掲げる事項のいずれかに該当する場合は、額の確定の有無にかかわらず、助成金の交付の決定の全部又は一部を取り消し、すでに助成金が交付されているときは、産業財団に返還しなければならないこと。

ア 助成事業の中止、廃止及び縮小した場合

イ 天変地異その他の事情の変更により助成事業の全部又は一部を継続する必要がなくなつた場合

ウ 助成金を交付申請書に記載の目的用途以外に使用した場合

エ 虚偽の申請及び報告を行った場合

オ 確定のための検査を受けることができない場合

カ (1)～(12)の各項の条件に反する場合

第7 軽微な変更

第6の(1)ア及びイに定める軽微な変更とは、次に掲げる変更をいう。

(1) 経費の配分の変更

支出科目ごとの経費の額の20%以内の変更

(2) 事業内容の変更

事業の実施過程で生じた事情の変化による取るべき方法又は手段的部分的な変更

第8 変更の承認申請

(1) 提出書類 各1部

ア 事業計画変更承認申請書（様式第3号）

イ 変更事項を具体的に説明する図面又は書類

(2) 提出期限

変更事項が発生した日から起算して15日以内

第9 助成事業の遂行状況報告

理事長は、助成事業の円滑及び適正な遂行を図るため必要があると認めるときは、助成事業者に対し、助成事業の遂行状況に関する報告を求めることができる。

第10 実績報告

(1) 提出書類 各1部

ア 実績報告書 (様式第5号)

イ 事業実績書 (様式第6号)

ウ 決算収支明細表 (様式第7号)

(2) 提出期限

事業完了の日から起算して30日を経過した日又は助成金の交付の決定のあった日の属する年度の3月31日のいずれか早い日まで

第11 助成金の額の確定

理事長は、第10の報告を受けたときは、その内容の審査及び現地検査により、助成事業の実績が助成金の交付の決定の内容及びこれに付した条件に適合すると認めるときは、助成金の額を確定するものとする。

第12 助成金の支払

助成金の支払は、第11の規定による交付すべき助成金の額を確定した後に、これを行うものとする。

第13 請求の手続き

(1) 提出書類 各1部

請求書 (様式第4号)

(2) 提出期限

助成金交付確定通知書を受領した日から起算して5日以内

第14 立入検査等

理事長は、助成事業の適正を期すため必要があると認めるときは、助成事業者に対して報告させ、又は産業財団職員に助成事業者の事務所、事業所等に立ち入らせ、帳簿書類その他の物件を検査させ、若しくは関係者に質問させることができる。

附 則

1. この要綱は、平成23年4月1日から施行する。
2. 平成24年4月1日一部改正。

別表第 1

事業名	対象者	事業の内容		
食品等開発助成事業	中小企業者等	食品、化粧品(食品素材を使用した場合のみ)、食品加工機械分野において、製品化に向けた試作品開発・実証試験を行う事業		
助成対象経費				
ア 原材料費	助成率	助成限度額	助成対象とする期間	
イ 機械装置又は工具器具の購入、製造、改良、据付け、借用に要する経費 ウ 外注加工費 エ 技術コンサルタント料 オ 委託費 カ その他(調査研究費及び消耗品費で対象事業への使用が特定できるものに限る)	1/2以内	100万円	1年以内	
優先採択事業				
ア 産学連携活用事業				
・大学等研究機関や産業支援機関が持つ研究シーズを活用して製品開発を行う事業				
イ 富士山静岡空港航路地交流事業				
・北海道など富士山静岡空港航路地の企業や大学等と連係して製品開発を行う事業				

交付申請書

平成 年 月 日

公益財団法人静岡県産業振興財団
理事長 櫻井透 様

所在地

名称

代表者

印

連絡担当者職氏名
TEL FAX
E-MAIL

平成 年度において食品等開発助成事業を実施したいので、高付加価値型食品等開発推進事業助成金交付要綱第4の規定に基づき、助成金を交付されるよう関係書類を添えて申請します。

1 申請する助成事業の名称 : 食品等開発助成事業

2 優先採択枠を希望する場合 (以下のどちらかに○を付けること。)

ア 産学連携活用事業

イ 富士山静岡空港就航地交流事業

3 助成事業に要する経費 : 金 円

4 助成交付申請額 : 金 円

5 事業開始予定年月日 : 平成 年 月 日

6 事業完了予定年月日 : 平成 年 月 日

(注) 申請する事業、項目に応じて修正すること。

事業実施計画書

1 事業の名称 :

2 申請者の概要

創業		業種	
資本金	円	主要製品	
従業員数	人 (※常時使用する従業員数)		
経営的 技術的 特 徴			
決算期	平成 年 月	平成 年 月	平成 年 月
売上高	千円	千円	千円
経常利益	千円	千円	千円

3 事業の内容

(1) 事業目的

製品開発の動機・経緯・背景等を記入の上、この事業を行う目的を記入すること。

(2) 実施スケジュール

以下の表形式で記入すること。

※1 項目 (なにをするのか)	※2 期間 (いつ)	概 要 (どのようにやるのか)	※3 連携機関 (だれと)

※1 製品開発したものを販売するまでを含めて記入すること。
 ※2 現実的かつ実現可能な期間設定をすること。
 ※3 優先採択枠を希望する場合には必ず記入すること。

(3) 製品開発

以下の項目について記入すること。

1 事業の新規性・優位性

(1) 技術、品質、機能などにおける新規性

(2) 従来製品又は競合する製品等と比較して価格、機能などにおける優位性

(3) 機能性等の付加価値

2 事業の市場性

(1) 潜在的又は顕在的市場ニーズ

(2) 製品開発コンセプト及び販売ターゲット

(3) 販売需要及び販売見込み（販売金額、販売数量、販売シェア等について具体的な数値）

3 製品化の可能性

(1) 製品化を達成するための課題及びその解決方法

(2) 製造工程の概要（フローチャート又は簡条書きで記入すること。）

4 事業遂行能力

(1) 事業遂行に必要な人的体制

(2) 事業遂行に必要な技術・知識等

4 経費

(1) 総括収支予算表

①収入

科目	金額(円)	摘要
産業財団助成金		
自己資金		
その他		
合計		

②支出

科目	金額(円)	摘要
原材料費		
機械装置購入等経費		
外注加工費		
技術コンサルタント料		
委託の費		
その他		
合計		

(2) 科目別支出予算内訳

①原材料費

項目	仕様	数量	単価(円)	金額(円)	備考
計					

②機械装置購入等経費

項目	仕様	数量	単価(円)	金額(円)	使用目的
計					

③外注加工費

項目	仕様	金額(円)	外注先	内容
計				

④技術コンサルタント料

項目	仕様	金額(円)	委託先	内容
計				

⑤委託費

項目	仕様	金額(円)	委託先	内容
計				

⑥その他 (調査研究費及び消耗品費で対象事業への使途が特定できるものに限る)

項目	仕様	金額(円)	購入先	内容
計				

5 その他

(1) 主任担当者

氏名	職務上の地位	経歴(詳しく記入)
(TEL)		

(2) 経理担当者

氏名	社内における地位
(TEL)	

(3) 実施場所

氏名	社外の場合はその理由
(TEL)	

(4) 特許・実用新案の状況(今回の申請事業に関連するものに限る。)

名称	特許権の有無	発明・考案者名

(5) その他の特記事項(ISO9000、ISO14000 シリーズ認定取得状況等)

--

事業計画変更承認申請書

平成 年 月 日

公益財団法人静岡県産業振興財団
理事長 櫻井透 様

所在地

名称

代表者

印

平成 年 月 日付け静産財第 号により助成金の交付の決定を受けた食品等開発助成事業の計画を次のとおり変更したので、承認されるよう関係書類を添えて申請します。

- 1 変更事項 (該当する項目に○を付けること。)
 - ア 経費の配分の変更 (別紙 1 に詳細を記入すること。)
 - イ 事業内容の変更 (別紙 2 に詳細を記入すること。)
 - ウ 事業の中止又は廃止 (別紙 3 に詳細を記入すること。)

ア 経費の配分の変更

単位：円

科目	項目	当初計画		変更計画		備考
		数量	金額	数量	金額	

*総括収支予算対比

単位：円

①収入

	変更前	変更後
産業財団助成金		
自己資金		
借入金		
その他		
合計		

②支出

単位：円%

科目	変更前	変更後	変更比率
合計			

(注) 変更比率は、変更後金額と変更前金額の差を変更前金額で除して算出すること。

経費の配分の変更をする理由について具体的に記入すること。

イ 事業内容の変更

当初計画	変更計画

事業内容の変更をする理由について具体的に記入すること。

--

ウ 事業の中止又は廃止をしようとする理由について具体的に記入すること。

--

請求書

金 円也

ただし、平成 年 月 日付け静産財第 号により助成金の交付の確定(決定)を受けた食品等開発助成事業の助成金として、上記のとおり請求します。

平成 年 月 日

公益財団法人静岡県産業振興財団
理事長 櫻井透 様

所在地
名称
代表者
印

口座振込先金融機関名

口座種別

口座番号

口座名義

実績報告書

平成 年 月 日

公益財団法人静岡県産業振興財団
理事長 櫻井透 様

所在地

名称

代表者

印

平成 年 月 日付け静岡県第 号により助成金交付の決定を受けた食品等開発助成
事業が完了したので、関係書類を添えて報告します。

(注) 事業実績書 (様式第6号) 及び決算収支明細表 (様式第7号) を添付すること。

事業実績書

- 1 事業の名称 :
- 2 事業完了年月日 : 平成 年 月 日
- 3 事業の内容
 - (1) 事業目的
 - (2) 製品化の状況
 - (3) 残された問題点等
- 4 事業の成果 (具体的に記入し、関係書類を添付すること。)

決算収支明細表

(1) 総括収支予算表

①収入

科目	金額(円)	摘要
産業財団助成金		
自己資金		
その他		
合計		

②支出

科目	金額(円)	摘要
原材料料費		
機械装置購入等経費		
外注加工費		
技術コンサルタント料		
委託の他費		
その他		
合計		

(2) 科目別支出予算内訳

①原材料料費

項目	仕様	数量	単価(円)	金額(円)	備考
計					

②機械装置購入等経費

項目	仕様	数量	単価(円)	金額(円)	使用目的
計					

③外注加工費

項目	仕様	金額(円)	外注先	内容
計				

④技術コンサルタント料

項目	仕様	金額(円)	委託先	内容
計				

⑤委託費

項目	仕様	金額(円)	委託先	内容
計				

⑥その他 (調査研究費及び消耗品費で対象事業への用途が特定できるものに限る)

項目	仕様	金額(円)	購入先	内容
計				

(注) 金額は税抜金額で記入すること。

備考欄、使用目的欄、内容欄に支払方法 (現金、振込、小切手、手形の別) を記入すること。

手形による場合は、その支払期日を記入すること。

成果報告書

平成 年 月 日

公益財団法人静岡県産業振興財団
理事長 櫻井透 様

所在地
事業実施住所
名称
代表者
担当者
TEL
e-mail

平成 年度に助成金交付決定を受けた食品等開発助成事業に関する平成 年度分の成果状況を次のとおり報告します。

- 1 事業の名称 :
- 2 成果状況
該当する項目に○を付け、別紙に具体的に記入すること。
 - ア 製品化した
 - イ 展示会・講演会・新聞等で発表する
 - ウ 特許・実用新案等を出願・取得する
 - エ 製品開発を継続中である
 - オ 製品開発を中断する
 - カ その他

ア 製品化（製品の名称及び売上金額・効果等を具体的に記入すること。）

1年間の売上金額
円

イ 展示会・講演会・新聞等での発表（発表の内容を記入すること。）

--

ウ 特許・実用新案等の出願・取得

種類	現在の状況	申請の名称
特許・実用新案 意匠登録・商標	出願・公開 公告・登録	(番号)
特許・実用新案 意匠登録・商標	出願・公開 公告・登録	(番号)

エ 製品開発を継続中（該当する項目に○を付け、継続の内容・今後の見通し等を記入すること。）

<p>1 1年以内に製品化見込：</p> <p>2 3年以内に製品化見込：</p> <p>3 3年後以降に製品化見込：</p> <p>製品化するために希望する支援等がある場合に記入すること。</p>

オ 製品開発を中断（該当する項目に○を付け、理由を具体的に記入すること。）

<p>1 技術的な理由：</p> <p>2 財務的な理由：</p> <p>3 人事的な理由：</p> <p>4 その他の理由：</p> <p>製品開発を続行・再開するために希望する支援等がある場合に記入すること。</p>

カ その他（具体的に記入すること。）

--

（注）1年間の実績について枠にとらわれずに記入すること。
該当しない項目は削除すること。